

こんな異常があるときは

取り付け後すぐに、「油を吐出しない」「音が高い」などの異常が起きた時は、次の故障早見表を確認ください。

原因が判明しない場合は弊社または、販売店にご相談下さい。

ポンプ故障早見表

故障内容	現象または想定原因	チェック項目・方法	処置・対策
吐出量が足りない 吸い込まない 圧力が上がらない	油が出る量が少ない 油がまったく出ない	バキュームゲージで吸入圧力を測定する -0.03MPa以上を表示するとキャビテーション	使用油の粘度を下げる
		吸入配管の目詰まり サクシオンフィルターの汚れ具合をチェック	サクシオンフィルターを清掃する
		タンク内の油量不足 油面計または目視で確認	油を規定量まで補充する。目安は、ポンプ1分間の吐出力の3~4倍にあたる量が必要です
		配管の継目より空気を吸っている可能性がないか？	配管を増締めして下さい
		使用圧力に対して油粘度が低い	ポンプに適した粘度にする
		圧力計を見ながらリリーフバルブの圧力調整ネジを締め込んでみる 結果：圧力が上がらない	リリーフバルブ内に異物噛み込みが考えられるので、リリーフバルブを洗浄して異物を除去して下さい
		圧力計を見ながらリリーフバルブの圧力調整ネジを締め込んでみる 結果：圧力が上がる	リリーフバルブが常に作動している状態なので設定圧力を上げる
		ポンプの回転方向違い 目視にて回転方向を確認	ポンプ表示の回転方向に修正
		吸入側及び吐出側が遮断されていないか？	吸入側及び吐出側回路を開放して下さい。 吸入側及び吐出側回路を広げて下さい。
油が洩れる	オイルシールより油洩れ	ポンプの回転方向が間違っていないか？	ポンプ修理又は、交換
		吸入配管に圧力はかかっているか？	ポンプは液面より高くし、1m以内に設置 オイルシールの耐圧は0~0.03MPa チェックバルブが吸入側にある場合吐出側の圧力が残るとその圧力の行き場がなくなるのでオイルシールに圧力がかかる
		油温がオイルシールの耐温度より高い	特殊材質のシールをご用意しております
		液質がオイルシール材質に不適合	シール交換、又はポンプ交換
油が出ない ブレーカーが作動する	モータ回転しない	停電または電圧低下	電源設備をチェックする
		電磁開閉器、ブレーカー作動していないか？	電磁開閉器、ブレーカーをリセットする
		電源コードの断線または接続不良	コードを取りかえる。または、接続をやり直す
	オーバーロード	所要動力は適正ですか？	モータ出力を上げる、又はポンプのサイズを下げる。不明の場合は、油の粘度、使用圧力、配管状態をお調べの上弊社へ連絡ください
	ポンプを手で回しても回転しない 回転が重い	使用油の粘度や潤滑性は適正か？	ロータがかじっているか、異物を噛み込んでいる可能性があるため
使用油は汚れていないか？		ポンプ交換又は修理して下さい	

故障内容	現象または想定原因	チェック項目・方法	処置・対策
音が大きい 変な音がする	吸入側の抵抗が大きい (キャビテーション)	バキュームゲージで吸入圧力を測定する -0.03MPa以上を表示するとキャビテーションです	吸入圧力-0.03MPa以内（大気圧に近い方向）に調整する
	吸入側配管が細すぎる 吸入側配管が長すぎる ポンプ回転が速すぎる サクションフィルターが抵抗になっている 油の粘度が高すぎる 吸い込み高さが高すぎる		配管を太くする 配管を短くする ポンプ回転を遅くする フィルターの抵抗が少ないものに交換する 油の粘度を低くする 吸い込み高さを下げる
	空気を一緒に吸い込んでいる (エアレーション)	タンク内に気泡が有りませんか？ 配管のゆるみは有りませんか？ 戻り配管が油中に入っていることを確認ください	タンク、配管、ポンプ内にエア侵入の無いように調整する 戻り配管は油中に浸けて下さい
	カップリングの芯出し不具合	両カップリングの同心度、倒れがないかどうかを確認	カップリングの規格値以内に修正